

社会福祉政策国際比較 2単位

担当教員: 訓覇 法子

日本の貧困が深刻化する理由は何か? 貧困軽減の効果的施策は何か?

講義目的・到達目標

国際比較手法の基礎知識

比較とは何か、比較の目的と方法に関する基礎知識を習得する。

社会福祉政策に関する日本とスウェーデン二国間比較

現代社会の変容によって人々が遭遇する社会的事故は多様化し、先進国の中でアメリカについて貧困率の高い日本の社会保障制度は、生活の安全を守るという根幹的な機能を果たせなくなっている。なぜなのか? 日本の貧困率の3分の1という低い貧困率を維持するスウェーデンの生活安全保障制度との比較によって、国際的視点から日本の生活安全保障制度の特質とその限界性を明らかにする。スウェーデンが(北欧型)福祉国家あるいは福祉先進国と呼ばれるのはなぜか、福祉国家の条件とはなにか、日本の貧困が深刻化する理由はなにかを考察する。

講義の構成

講義の流れ

まず、講義の目的と目標を明確にし、講義の進め方を確認する。社会科学・社会福祉学における概念定義と批判的検証の重要性を明確にする。次に、現代社会が直面する深刻な貧困問題を取り上げ、貧困の定義と貧困線の決め方を学び、先進国の相対的貧困率を比較する。貧困率がなぜ国によって異なるのかを考えるために、比較とは何か、比較の目的と手法を学ぶ。次に、福祉・社会福祉の定義を確認し、最終的に日本とスウェーデンの公的な生活安全保障制度を比較する。日本の貧困問題をさらに詳しく分析するために、財政社会学や社会学の研究者(過去のゲスト講師としては、東大名誉教授神野直彦氏など)によるゲスト講義を実施する。

1 講義の目的と目標・講義の進め方

2 社会科学と社会福祉学、概念定義と批判的検証の重要性

3 貧困とは何か、相対的貧困の定義と先進国の貧困率の比較

4 比較とは何か、比較の目的と比較手法

5 福祉・社会福祉とは何か

6 社会政策・社会保障制度の日本とスウェーデンの二国間比較

講義のポイント

知識を暗記するのではなく、批判的検証力を各自が身につけることを重視する。批判的検証に必要な「各自が考える作業」と「根拠ある見解」を生成するために、担当教員が提起する課題についてグループ討議を行い、各グループが発表し、発表結果を担当教員が整理し、理論化する方法をとる。したがって、履修者の積極的な授業参加が要求される。

受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ 日本社会保障制度に関する基礎知識を習得しておくこと。
- ②参考図書 訓覇法子『アプローチとしての社会福祉システム論』法律文化社、『社会福祉システム論』日本福祉大学通信教育部テキスト、講義にも使用する。
- ③評価基準 グループ討議への積極的参加を評価に加える。講義2日目の終わりに、1時間の筆記試験を実施する(持ち込み不可)。評価は、講義内容の正確な理解力と批判的検証による考察力を重視する。
- ④より学びを深めるために 2日間の講義では十分内容を理解することは難しいために、担当教員が適切であると考えられる参考文献を指定し、資料を配布する。自分の理解が正しかったかどうか確かめるために必読すること。